



年中夢求・夢の実現

宜野湾中学校だより



学校長：宮里 里加子

令和8年度

VOL.

6

14. JUL. 2026

1学期を振り返って No.1 日常編

1学期あと残りわずか。学校だより前号では、「時間を守ることの大切さ」を伝え、現在抱える課題について発信しましたが、今回は、これまでの生徒たちの「主体性」と「思いやり」が溢れた日々の何気ない日常や、学校を引っ張る自治的活動の様子をお届けします。

心温まる私たちの 何気ない日常編

今学期も学校の中には、思わず笑顔になるような、接する人を幸せな気持ちにさせてくれる素敵な瞬間がたくさん溢れていました。その一部を紹介します！

○ 笑顔が広がる「最上級のあいさつ」と伝統がつなぐ「坂道一礼」

毎朝、ほとんどの生徒が気持ちよくあいさつを返してくれます。しっかりと目と目を合わせ、笑顔で「おはようございます！」と最上級のあいさつを届けてくれる生徒も多いのが宜野湾中の良さです。そんな生徒達に出会うと、自然と心にエネルギーが湧いてきます。そんな当たり前の風景をみんなで大事にしていきたいです。

さらに素晴らしいのは、本校の伝統である「坂道一礼」です。登下校の際、坂道を通る車（運転手さん）に対しても、生徒たちは立ち止まり、心を込めて丁寧に頭を下げてあいさつをしています。通りすぎるドライバーの皆さんへ向けるこの礼儀正しく優しい姿は、宜野湾中の「伝統」として受け継がれ、自分たちの学校としての大きな「誇り」です。



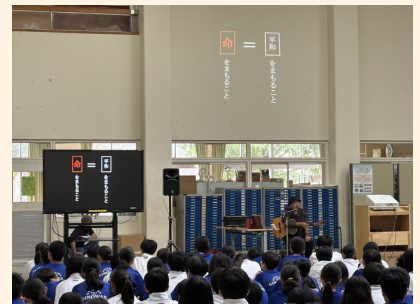
○ 「手伝いますか？」に溢れる思いやりの心

ある日の掃除の時間、観葉植物の鉢の植え替えをしようと外に出たときのことです。すぐに整美委員の生徒が「手伝いますか？」と声をかけてくれました。「大丈夫よ、ありがとうね」と伝えたものの、数歩歩くと、また別の生徒が「手伝います！」と声をかけてくれます。最終的には嬉しくなって手伝ってもらいました。「気づき、考え、行動できる」——その根っこに、相手を思いやる温かい心がある素敵な生徒たちです。



○ 外部講師の方々が感嘆する「聞く態度と素直さ」

1学期は様々な外部講師を招いて講演会を行いました。講師の先生方が口々に褒めてくれたのは、「聞く態度と全体的にち着いた集団の素晴らしさ」です。さらに、講演会が終わった後も講師の先生のもとへ直接質問に行ったり、感想を伝えに行ったりと、素直に人と接することができるのも宜野湾中の生徒の大きな強みです。



○ 笹の葉に揺れる、素直な願いごと（図書委員会さんの活動コラボ）

玄関先に、図書委員さんが七夕の笹飾りを作成しました。色とりどりの短冊に込められた願い事の一つひとつを読んでみると、思わず心がほっこりするような、素直で優しい願いごとがたくさん書かれていました。他の生徒もどんな願いがあるか興味津々。「願い事」を見る生徒も心が素直であるからこそその風景です。

